

園長通信

(令和8年度8月号)

幼稚園型認定こども園高槻双葉幼稚園
園長 岡部 祐輝

【不快・不便・不足から学ぶ経験】

1学期の教育活動が終了し、幼稚園では現在、ホームクラス（1号預かり保育）やフレンズクラス（2号保育クラス）の子どもたちが元気に登園しています。8月に入り暑さがより一層厳しくなりましたが、子どもたちは適切な水分補給や体を休ませることの大切さを、保育者の言葉や日々の体験を通して学んでいるところです。

さて、幼稚園という集団生活の場では、家庭とは異なり多くの他者と時間を共にします。その中では自分の思い通りにいかないことも多く、「折り合いをつけること」や「我慢すること」を少しずつ覚えていきます。この集団生活の中で、もう一つ大切にしたい観点があります。それが「不快・不便・不足から学ぶ」ということです。

● 「不快」からの学び

夏の暑さや汗、湿気などは、ある種の「不快」さをもたらします。その中で「お茶を飲む」「汗をぬぐう」「日陰で休む」といった行動を体験します。これは単に保育者に言われたから 行うのではなく、自分で行うことで「快適になる」という良さを身体で実感し、次もそうしようと考えていくために大切です。

● 「不便」からの学び

例えば、製作遊びで出た小さな紙切れなどを捨てたいのに「近くにゴミ箱がない」という状況（不便）があったとします。遠くまで捨てに行く手間を感じた時、子どもたちから「自分たちの近くにゴミ箱を作ればいいんだ！」というアイデアが生まれることがあります。

● 「不足」からの学び

ロボットを作りたいのに「手足を構成する箱がない」という状況（不足）では、他の素材を組み合わせることで、足りないパーツを自分たちで生み出し、作りたい形を完成させていきます。

いずれも、子どもたちが目の前の状況を踏まえて「じゃあ、こうしてみよう！」と考え、行動に移している姿です。この体験の根底には、「ないものは自分たちの工夫で生み出せる」「自分が動けば状況を変えられる」という幼児期ならではの**実感**があります。これこそが、子どもたちの生きる力につながると考えております。

大人はつい手を出して助けたい場面もありますが、「支えること」と「見守ること」をしっかりと見極め、子どもたちが自ら考える「余白」を大切に保育を進めてまいります。

8月の夏期保育開始まで、各ご家庭でさまざまな夏の日々をお過ごしのことと存じます。熱中症には十分にお気をつけいただき、また夏期保育や2学期のスタートで元気な子ども達に会うことができることを心より楽しみにしております。

